

3学年 学年だよ!

青空学年

～成長の記録・最終章～

発足 936 日目 (卒業まで、あと 134 日)

≪残り登校回数、あと 81 回≫



ふわリン

第 119 号 2021.10.26  
文責 佐藤敏之

学年目標

飛

～素直な心でお互いに尊重し合い、小さな翼を  
立派に成長させて未来へ翔けだそう～

～hugくみ～

体育祭を終えて



10月23日(土)、晴れ渡る青空の下、東中学校第50回記念体育祭が開催されました。

白組(1組)、緑組(2組)、青組(3組)、黄色組(4組)、赤組(5組)、どの色も精一杯に競技や応援に臨み、大変盛り上がった体育祭となりました。

「競技の部」での優勝は緑組、準優勝は白組。「応援の部」での優勝は白組、準優勝は赤組。そして学年ごとに競われる大縄跳び「何回とべる」3学年の1位は5組、2位は2組でした。

今年度は最高学年ということで自分たちの色を中心となって引っ張っていかねばならないという責任の中、各色のリーダー(色長、団長、副色長、副団長、応援団、種目責任者など)の中には思うようにいかない取り組みの中で、悩み、苦しんだ人も多くいました。ましてやコロナ禍の影響で1年前の文化祭以降、職場体験、鎌倉遠足、修学旅行、文化祭、と行事らしい行事をほとんどできずにここまで過ごしてきた中での体育祭です。きっと多くの苦労や疲労があったことと思います。練習期間中、それぞれのクラスにおいて気持ちのすれ違いや練習への取り組み方など、様々な課題が生じましたが、日常の学校生活ではなかなか見えてこない行事ならではの課題は、クラスがクラスとして、さらには生徒たちが1人の人間として成長するための大切な機会となりました。

そんな状況の中、勝って喜んだ組もあれば、負けて悔しさを噛みしめた組もあります。勝負事である以上、すべての組が勝って喜ぶというわけにはいきません。しかし結果に関わらず青空学年の生徒たちは練習や本番を通して様々な成長を遂げてくれました。体育祭本番では、一日を通して、本当に生き生きとした明るく逞しい姿がグラウンドの至る所に広がっていました。まさに「五彩輝満(ごさいてるみつ)～五色の輝きで東中を満たそう～」という今回の体育祭目標が達成されていたのではないのでしょうか。

最後の閉会式、私は整列している全校生徒の後方にある入場門で、一人静かに会の進行を見守っていました。その中で生徒会長・近藤光璃さんが語った「たくさん悩んで、たくさん考えて、それでいて、たくさん楽しみました。」という言葉は、今年の体育祭をととてもよく象徴していたように思います。自分と違う人間と関わり合う中で、悩みながらも自分と相手の違いを知り、それによって自分自身の考え方や感じ方を知り、そこから他者との関わり方を考えていく。そして少しずつ成長し、新たな何かをつかんでいく。「学校」という場がそういった場所であることや「行事」というものがそういったエネルギーを持っていることを、私自身も改めて実感することができました。そして近藤さんは、自らの言葉の最後に「ここまで優勝を目指して争っていた5色を一つにまとめて終わりたい」と、全校生徒による“かけ声”を提案し、全校生徒も右手の拳を空に向けて突き上げながら大声でそれに応じ、体育祭の最後に東中学校を彩っていた5つの色が見事に一つにまとまりました。そんな光景にしみじみと目と耳を傾けながら、少しずつ、確実に、この学年の形、「青空学年らしさ」が作られてきたように感じました。「ローマは一日にして成らず」ということわざがあります。「立派なことやものは、長い間の積み重ねがあって初めて完成する」という意味のものです。これは、「学年」にもあてはまる言葉だと思います。人間同士相性の良し悪しはあるので、仲の良い友達が多いとか少ないとか最初の組み合わせがたまたま良いとか悪いとかということはあると思います。でも、自分たちの課題に対してみんなで向き合ったり、何かに一生懸命取り組んで達成感を得たり、むしろ逆に辛く悔しい経験を共有したり

(裏面に記載あり)

時には気持ちをぶつけ合って悩んだり苦しんだりしながら、そんな中でお互いに少しずつ認め合いながら励まし合い支え合ったりする。そんないくつもの積み重ねが、「学年」という集団を形作っていくのです。そして青空学年の生徒たちは、コロナ禍という未曾有の苦難も乗り越えて、この「学年」を自分たちの手で確実に形作ってきたのです。これまで自分たちが積み重ねてきたことを、これからも大切にしていってほしいです。今、自分たちができていることを大切にしていってほしいです。今回の体育祭で得た大きな成長を、12月にある文化祭のクラス合唱につなげ（これがクラスで何かを創りあげる本当に最後の機会です）、さらにはそれぞれの進路選択につなげていってほしいです。それはきっと、この東中学校を卒業してさらに広い世の中に踏み出していった時、きっと生徒たちの心を支え、人生を豊かにしてくれると思います。そんなことをしみじみと考えながら閉会式の最後に全校生徒によって声高らかに歌われた校歌「燃える希望」を聞いていたら自然と涙があふれてきました。

134日後、学年目標「飛～素直な心でお互いに尊重し合い、小さな翼を立派に成長させて未来へ翔けだそう～」にふさわしい、清々しい卒業を迎えられることを願っています。

## あとかき

我が家の子どもたちにも、先日運動会がありました。上の娘にとっては2年ぶり、下の息子にとっては人生初の運動会でした。運動会までの日々、娘はダンスやかけっこの練習をした日には「今日、〇〇の練習したの!」と嬉しそうに教えてくれながらも、当日まで「ダンスの曲はひみつ」と言って教えてくれなかったり（実はプログラムで知っていましたが…）、運動会の話をした後で寝ようとした時にクスクス笑いながらなかなか眠りにつかないので「どうしたの?」と聞いてみると「**嬉しすぎて眠れないの**」と言ったりもし、やはり2年ぶりの運動会がとても楽しみだったようです。そしていざ本番。娘は、はりきって練習したダンスを笑顔で楽しそうに踊り切りました。一方、息子はと言うと、初めての運動会で多くの保護者が見つめている光景にポカンとした表情で、ダンスの曲が流れている間、ひたすらじっと立ち尽くしていました。そんな息子の姿を目にしなが、そういえば3年前の娘も同じように踊らずに立ち続けていたなと思い返して微笑ましい気持ちになりました。さらに娘はかけっこ（2人でトラックを一周競って走る形でした）に臨んだのですが、スタート直後に地面のくぼみに足を取られて少し転びそうになりながらも持ちこたえたのですが、その間に相手のお友だちに差をつけられてしまい、必死に追いかけて少しずつ差を詰めつつも追いつき切れずにゴール。ゴールラインを超えた後で地べたに座り込み、大声で泣きだしてしまいました。とても悔しかったのでしょ。でも、その悔しさは一生懸命がんばったからこそその悔しさです。親としては、勝ち負けよりも何よりもアクシデントがあっとうまくいかない中でも、最後まであきらめずに走りきった娘の姿が何より誇らしく嬉しかったです。そんなこんなで運動会は終わっていきましたが、帰り道、娘は母親と手をつないで歩きながら「**運動会、楽しかったわ!**」と笑顔で言っていました。

## 今後の予定

(今 週)

日	曜	行事等
25	月	体育祭振替休業
26	火	学習診断テスト 諸活動停止
27	水	45分授業 昼休みカット・帰学活別 【放】生徒向け進路説明会(希望者)
28	木	45分授業
29	金	45分授業 PM 式典前日準備 <b>集金袋配付</b>
30	土	<b>創立50周年記念式典</b>

(来 週)

日	曜	行事等
11/1	月	45分授業 三者面談・面接練習
2	火	45分授業 三者面談・面接練習
3	水	文化の日
4	木	45分授業 <b>集金最終日</b> 三者面談・面接練習
5	金	45分授業 三者面談・面接練習

※「諸活動停止」は放課後の活動がすべて無しで帰り学活後に全員下校することを示します。

※月間を通しての行事予定は、学校だよりおよび学校ホームページにてご確認いただけます。